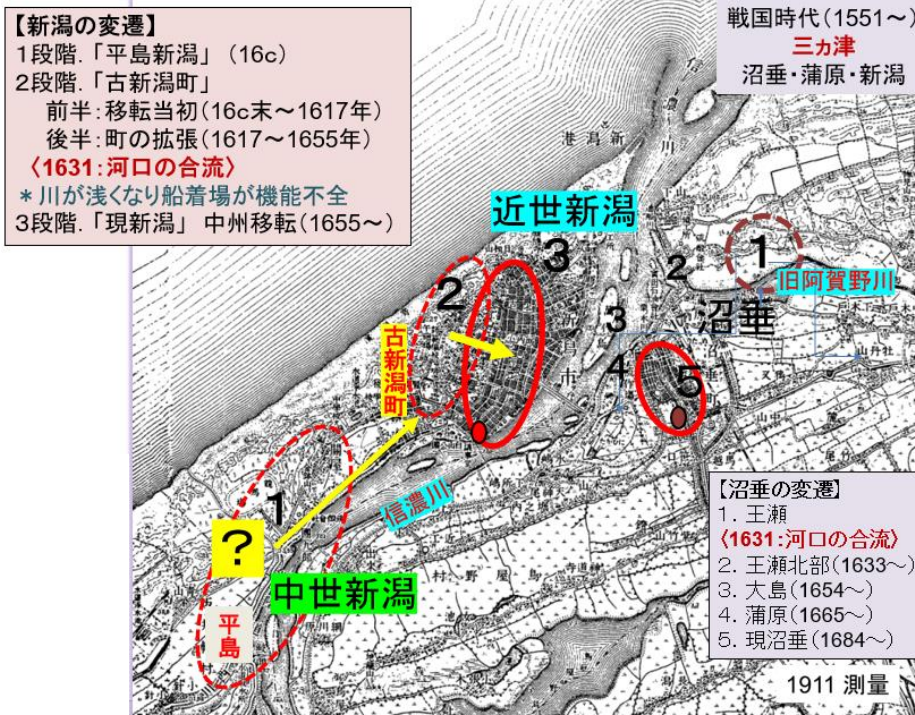


はじまりの 新潟

最新の研究成果から考える
中世・近世初期の湊町新潟と沼垂

お話 坂井秀弥 新潟市歴史博物館みなとぴあ館長

新潟町明暦の移転370年記念



2025年 6月28日[土]
14時半～16時半（受付開始14時）



新潟まち遺産の会HP

新潟まち遺産の会
は会員を募集して
います！

年会費
正会員3,000円
賛助会員1,000円



入会案内

主催 新潟まち遺産の会

現在の新潟市には旧新潟町地域をはじめ様々な場所に、多くの歴史的建造物が残されています。第二次大戦での大規模空襲がなく、戦後はそのすべての地域で近世の風情を伝える戦前の姿が残されていました。

「新潟まち遺産の会」は二〇〇四年に発足しました。建築物をはじめとする、町に残された歴史的遺産を共有の文化的財産「まち遺産」と考え、それらが保存継承され、生き生きと活用されながら愛されていくことを願う市民の集まりです。

今年（二〇二五年）は旧新潟町が現在の場所につくられて三七〇年目にあたります。それ以前の新潟は現在の西大畑・旭町のあたりにあり、のちに「古（ふる）新潟」と呼ばれました。近年発見された資料で古新潟以前の十六世紀前半に新潟（新方・新かた・ニイカタなどとも）と書かれる町がすでであり、一五六〇年代には「平嶋郷」と呼ばれた場所にそれがあつたことが明らかになりました。新潟市西区平島を含む、河口をさかのぼった信濃川左岸にあつた地域です。そこを新潟と呼ばれることになる町のルーツとするなら、新潟はその後、二度の移転をしたこととなります。

同じ中世・近世期には、より古い起源をもつ湊町沼垂が洪水による川欠け（町の土地が川の一部分になってしまうこと）などによって四度の移転を余儀なくされています。

明治期に合併し、現在の広域市新潟の中央区の一部となる二つの湊町の「はじまり」の物語を、最新の研究成果をもとにひもといていただきます。

坂井秀弥（さかい ひでや）

1955年新潟市沼垂生まれ。1980年関西学院大学大学院修了、2007年博士（学術）取得。新潟県教育委員会、文化庁、奈良大学を経て、現在、新潟市歴史博物館館長、公益財団法人大阪府文化財センター理事長、奈良大学名誉教授。主な著書に『古代地域社会の考古学』（単著、同成社、2008年）『日本海域歴史大系2 古代篇2』（共編著、清文堂、2006年）『邪馬台国からヤマト王権へ』（共著、ナカニシヤ出版、2014年）など。

会場

新潟市歴史博物館みなとぴあセミナー室
新潟市中央区柳島町2-10

- 定員 100名 参加料1000円（新潟まち遺産の会会員無料）
- 申し込み 新潟まち遺産の会へメールで
chanoma@machi-isan.sakura.ne.jp
- お問い合わせ 025-384-0444